

何故、墓の御題目に 貫主の名前と花押があるのか

廣田 頼道

「聖人の唱えさせ給う題目の功德と我等が唱え申す題目の功德と何程の多少候べきやと云云、更に勝負あるべからず候、其故は愚者の持ちたる金も智者の持ちたる金も愚者の然せる火も智者の然せる火も其差別なきなり、但し此経の心に背きて唱へば其差別有るべきなり、」

松野殿御返事（全一三八一頁）

亡くなつた父が生前、大石寺（典礼院）へ先祖の墓を建立したため、墓守のつとめと、遅ればせの孝行で、一年に何回か、心掛けて御詣りするようになっている。

三師塔に御詣りし、日達上人の御墓に御詣りしてから、何度も、先祖の墓に向かう道すがら、整然と並ぶ墓郡を見乍ら歩いている内に、何故これ程にも墓石正面の御題目の脇に貫主の名前と花押が刻まれ

ているのか、違和感を感じるようになって来たのであります。御題目だけの御墓も沢山あります。歴代のどなたからこの様なことをするようになったのか。著名ならば裏にすれば良い。本尊のつもりならば、

妙法蓮華經

貫主花押

は、有り得ない。日蓮大聖人の初期（文永年間）の御本尊様でも、

不動明王（梵字）

南無妙法蓮華經

愛染明王（梵字）

日蓮花押

不動明王（梵字）

南無多宝如来

南無妙法蓮華經

南無釈迦牟尼佛

日蓮花押

愛染明王

と、示されています。つまり、

南無妙法蓮華經 日蓮花押

という本尊は無いわけでありますから、墓石の正面

は、略式の本尊として、

貫主花押

を、入れているわけではありません。万が一あつたとしても、

日蓮 在御判

なくして、

貫主花押

が存在することは、不遜の行為であります。ということは、只、私が書いたという意味で著名している可能性が高いと言うことが分かります。

祈念碑や歌碑や色紙ならば、最後に著名が刻まれているても、何の違和感もありません。

御題目は名前を書かなくても、誰の書いたものか筆跡で分かります。

何の法門的意味があるのでしょうか。

末寺の住職でも、御題目の横に名前を刻んでも良

いのでしょうか。

御題目に差があるのでしょうか。

どの歴代から始めたのか分かりませんが、凡夫の性で始めたのでしょうか。

愚かなことであります。

そんなことで、信徒が、「私の墓は、貫主に御題目を書いて貰った、ありがたい。」

と、得意になつたり、逆に、そうしなかつた信徒が、みじめな気持ちを抱いたりしたら、名聞名利を増長させ、マイナスとなつてもプラスになることは一つもないのであります。本来の法門からも信仰からも外れ、御題目に手を合わせ、成仏を願ひ御題目を唱える純粋な信仰心に異心を入れる事になります。

法門的に深い意味があるならば、二七の隠尊貫主でも、二七から承けた、二七二七貫主でも良いですから。反論をして下さい。それが出来ないなら、墓に名前を刻む愚かな行為を止めて下さい。

日達上人もやっていたと言うのは、法門としての理由にはなりません。

日達上人も間違っていたのでしょうか。